

## ■ 平成30年度 府民公開講座「四万十～いのちの仕舞い」上映会 開催報告

平成31年3月21日(木・祝)、府民向け上映会「四万十～いのちの仕舞い」を開催し、393名の方にお越しいただきました。

今回は、昨年の府民公開講座で、ご講演いただきました、医療法人関の会 大野内科 院長・小笠原 望先生のドキュメンタリー映画を上映しました。当日は、映画を監督された溝淵監督にもお越しいただき、制作に対する想いなどを語っていただきました。また、小笠原先生からはビデオメッセージも届き、会場は終始、和やかな雰囲気にも包まれました。

来る、6月8日(土)には、ハビネス福知山でも上映会を開催いたします。  
是非、お見逃しなく。 ハビネス福知山:〒620-0035京都市福知山市宇内記100

## 2019年度 研修会予定のご案内



京都 在宅医療

検索

詳細は順次、京都医報、当センターホームページでご案内いたします。

### 京都在宅医療塾Ⅰ～探究編～ 対象:医師・看護師

※全回共通【時間】10:00～調整中  
【ところ】京都府医師会館3階 310会議室

#### 第1回「在宅医療の現場で出合いがちな[せん妄]について(仮)」

【とき】7月28日(日)  
【講師】京都府医師会 理事  
医療法人同仁会(社団)京都九条病院 精神科・心療内科  
介護事業部 事業部長 統括医師 西村 幸秀氏

第2回  
【とき】11月24日(日)  
【講師】早期緩和ケア大津秀一クリニック 院長 大津 秀一氏

第3回  
【とき】2020年2月16日(日)  
【講師】東京ふれあい医療生活協同組合 副理事長 梶原診療所 所長  
オレンジほっとクリニック 地域連携型認知症疾患医療センター長  
平原 佐斗司氏

### 京都在宅医療塾Ⅱ～実践編～ 対象:医師

※全回共通【ところ】京都府医師会館5階 京都府医療トレーニングセンター  
【講師】第3回以降調整中

#### 第1回「知っておきたい! 褥瘡の治療とケア(仮)」

【とき】7月25日(木)18:00～20:00

【講師】小川皮フ科医院 院長 小川 純己氏

#### 第2回「知っておきたい! 褥瘡の治療とケア(仮)」

【とき】9月25日(水)14:30～16:30

【講師】小川皮フ科医院 院長 小川 純己氏

#### 第3回「知っておきたい! 在宅での輸液スキル(仮)」

【とき】10月17日(木)18:00～20:00

#### 第4回「知っておきたい! 在宅での輸液スキル(仮)」

【とき】11月20日(水)14:30～16:30

#### 第5回「知っておきたい! 在宅医療での薬剤師との連携(仮)」

【とき】2020年2月19日(水)14:30～16:30

### 認知症サポート医フォローアップ研修 対象:医師

※講師・時間は現在調整中です

#### 北部

【とき】10月26日(土)

【ところ】サンブラザ万助

#### 南部

【とき】2020年3月28日(土)

【ところ】京都府医師会館

### ●参加者の声● (参加者アンケートより抜粋)

●先生が一生懸命、一人一人を丁寧に命を見つめて診療している姿に感動しました。それと四万十の美しい景色。良い映画をありがとうございました。(80代女性)

●祖母を自宅で看取ったことを思い出しました。命が終わるその時その瞬間に立ち会えたこと、私の人生で大きな経験となりました。良い映画、良い先生、たくさんの方の生き方を見せていただき、ありがとうございました。(50代女性)

●医療現場の大変さ、先生の気持ちの強さに感銘を受けました。地域医療のさらなる発展を期待します。先生のような意志を持った若い医者が育ってほしいです。(50代男性)

### 総合診療力向上講座 対象:医師

※全回共通【時間】14:30～16:30  
【ところ】本会場:京都府医師会館3階 310会議室  
※北部・南部会場はテレビ会議システムを利用した中継会場となります。

第1回  
【とき】7月20日(土)  
【ところ】北部会場:ホテルマーレたかた(舞鶴市)  
南部会場:京田辺市商工会館 CIKビル  
【講師】洛和会音羽病院 総合内科・リウマチ部門 部長 谷口 洋貴氏

第2回  
【とき】8月31日(土)  
【ところ】北部会場:ホテルマーレたかた(舞鶴市)  
南部会場:けいはんなプラザ(相楽郡)  
【講師】天理よろづ相談所病院「憩の家」 総合診療教育部 医員  
感染症管理センター 医員 佐田 竜一氏

第3回  
【とき】9月21日(土)  
【ところ】北部会場:サンブラザ万助(福知山市)  
南部会場:京田辺市商工会館 CIKビル  
【講師】洛和会丸太町病院 救急・総合診療科 部長 上田 剛士氏

第4回  
【とき】10月19日(土)  
【ところ】北部会場:サンブラザ万助(福知山市)  
南部会場:京田辺市商工会館 CIKビル  
【講師】市立福知山市市民病院 研究研修センター長兼総合内科医長  
川島 篤志氏

### 生活機能向上研修 対象:医師・多職種

※講師は現在調整中です

食支援 Part  
【とき】2020年1月11日(土)14:30～17:30  
【ところ】京都府医師会館3階 310会議室

排出支援 Part  
【とき】2020年2月8日(土)14:30～17:30  
【ところ】京都府医師会館2階 211、212、213会議室

### 府民公開講座 対象:京都府民

北部会場  
【とき】6月8日(土)15:00～17:00  
【ところ】ハビネスふくちやま  
平成30年度に開催し、大好評の小笠原望先生主演映画  
「四万十～いのちの仕舞い～」上映会を北部開催いたします。

南部会場  
【とき】2020年3月20日(金・祝)13:30～15:30  
【ところ】京都府医師会館3階 310会議室  
【講師】調整中

在宅医療に関係する質問があればお問い合わせください。サポートセンターと保険医療課で連携し回答いたします。

お問い合わせ、ご意見及びご感想は

京都府医師会在宅医療・地域包括ケアサポートセンター

〒604-8585 京都市京都市中京区西ノ京東桐尾町6番地 京都府医師会館3階  
tel.075-354-6079 fax.075-354-6097

京都府医師会

# 在宅医療・地域包括ケア サポートセンター news

Vol.29

2019年5月15日

京都府医師会在宅医療・地域包括ケアサポートセンター  
〒604-8585 京都市京都市中京区西ノ京東桐尾町6番地 京都府医師会館3階 tel.075-354-6079 fax.075-354-6097

在宅医療・地域包括ケアサポートセンター news は奇数月15日の発行です。  
※当センターホームページにてバックナンバーがお読みいただけます。

## Main menu

- ◆平成30年度かかりつけ医認知症対応力向上研修(集合研修)(北部・南部会場)開催報告(P.2)
- ◆平成30年度認知症対応力向上多職種協働研修会(下京西部)(中京東部・中京西部)開催報告(P.2)
- ◆平成30年度認知症対応力向上研修(東山)(京都北・上京東部・西陣)(亀岡市・船井)開催報告(P.2)
- ◆平成30年度認知症サポート医連絡会/認知症サポート医フォローアップ研修(南部・北部会場)開催報告(P.3)
- ◆<在宅医療あれこれ>(P.3)
- ◆平成30年度府民公開講座「四万十～いのちの仕舞い」上映会 開催報告(P.4) ◆2019年度研修会予定のご案内(P.4)

## ■ 平成30年度 第4回 京都在宅医療戦略会議 開催報告

平成31年3月30日(土)、京都府医師会館にて、第4回京都在宅医療戦略会議を開催し、地区医師会より24地区26名の担当理事と京都府、京都市、関係団体代表者等の計65名にご参加いただきました。

まず、(公社)京都府看護協会 常任理事・辻村 美晴氏より「平成27年度からの在宅療養移行支援の取り組み」として、①山城地区をモデル地区とした地域活動、②安心在宅療養相談事業、③人材育成研修の各事業をご紹介いただきました。

### ○山城地区モデル事業

地域の関係者を構成委員とした在宅療養地域推進会議を設置。癌患者の在宅看取りでの課題解決のため、地域と病院を繋ぐ「思いをつなぐシート」(以下『シート』と略す)を作成。シートは医療機関間の既存サマリーにはない情報を引き出すためのものであり、京都府看護協会ホームページでも公開し、シートの普及を目指した啓発事業として「従事者研修」「住民公開フォーラム」を開催している。

また、病院勤務看護師の在宅療養対応力向上を目的に「病院訪問看護ステーション協働退院支援モデル事業」を実施。在宅療養地域推進会議に参画している4病院の退院カンファレンスに訪問看護師が参加し、在宅の視点でアドバイスする事業で、今後も継続していく。

### ○安心在宅療養相談事業

5訪問看護事業所の協力を得て、「くらしあんしん療養相談室」という相談窓口を設置。居宅介護支援事業所の介護支援専門員や地域住民等からの看取りや認知症等の相談に応じる事業。

### ○人材育成研修

①退院支援看護師養成研修、②退院支援看護師アドバンス研修、③在宅療養移行支援看護管理者研修一を体系的に実施。

平成31年度の事業として、平成30年度から進めている南丹地域のモデル事業とともに「くらしあんしん療養相談室」、「病院訪問看護ステーション協働退院支援モデル事業」を継続するほか、新たに「がん外来治療支援看護師養成研修」を企画していることを報告されました。

引き続き、京都府訪問看護ステーション協議会(以下、協議会と略す)会長・濱戸 真都里氏より、まずは、協議会の沿革を法改正とともに紹介された後、協議会における在宅医療介護推進事業について発表いただ

きました。概要は以下のとおり。

①訪問看護師・多職種による現場研修事業:平成28年度より京都府地域医療介護総合確保基金を活用し、訪問看護師、多職種が身近な地域や、専門性に特化した訪問看護ステーションで、訪問看護師と同行訪問を行う研修。受講者は、153名(訪問看護師73名、薬剤師59名、栄養士12名、介護支援専門員5名、介護福祉士3名、社会福祉士1名)であった。

②身近な地域における多職種による「看取り」研修事業:京都地域包括ケア推進団体等交付金を活用。各地域において医療・介護職が協働し、本人や家族の力を引き出しながら希望を叶えるための看取り研修を実施。平成30年度は、医師・看護師・介護支援専門員・介護職員・病院相談員等を対象に、京田辺市、右京区、西京区の3地区で開催。

③訪問看護ステーション事業者の質向上・人材確保研修事業:以下の研修会を紹介。「ラダーレベル別研修」協議会の『クリニカルラダー(段階別の評価基準)』を作成し、対象を新人、中堅、管理者に分けて実施。「専門領域別研修」在宅緩和ケア研修会、小児研修会(医療的ケアの必要な児へ対応の研修)

最後に、協議会の役員・各地区のリーダーは、各自にステーションでの勤務を行いながら活動しており、組織としての不十分さはあるが、「訪問看護の力」を生かし役割を果たしていきたいと意欲を示されました。

### 成年後見制度における診断書の書式の改定について

西村理事より、成年後見制度における診断書等の書式改定について説明されました。(概要は京都医報平成31年4月1日号「地域医療部通信」P.2参照)

その他、平成30年度地区医師会在宅医療推進事業の報告と令和元年度の同事業計画について、各地区から発表があり、更に事前にいただいた地区からの意見に対して、活発な意見交換が行われました。



## ■平成30年度 かかりつけ医認知症対応力向上研修(集合研修) (北部)(南部) 開催報告

(北部)

平成30年11月24日(土)、ホテル北野屋にて、「(I) かかりつけ医の役割 (II) 診断と治療 (III) 連携と制度」と題し、(I) 日置病院 院長・日置 潤也氏、(II) 京都府医師会 理事・西村 幸秀氏、(III) 安井病院 院長・安井 俊雄氏にご講演いただき、医師20名、多職種8名、合計28名が受講されました。



北部会場の様子

(南部)

平成31年2月23日(土)、京都府医師会館にて、「(I) かかりつけ医の役割 (II) 診断と治療 (III) 連携と制度」と題し、北山病院 院長・澤田 親男氏、京都府立医科大学附属病院 精神科・心療内科 併任教員・柴田 敬祐氏にご講演いただき、医師75名、多職種11名、合計86名が受講しました。



南部会場の様子

### ●受講者の声● (受講後アンケートより抜粋)

- 運転相談窓口のことを学べた。認知症は病気であることを十分に理解してもらい、家族に気付いてもらえることが大事。(北部会場/看護師)
- 患者対応→診断→対応・治療が分かりやすく説明され、とても有意義だった。

た。(南部会場/医師)

- 認知症の診断、治療から多職種の連携までたいへん分かりやすく説明していただき、再確認することができました。(南部会場/多職種)

## ■平成30年度 認知症対応力向上多職種協働研修会 地区医師会(下京西部)(中京東部・中京西部) 開催報告

(下京西部地区医師会)

平成30年10月20日(土)、京都市ササキパークにて、ワールドカフェ方式で事例検討を行いました。医師16名、多職種22名、合計38名が参加されました。



下京西部ワールドカフェ方式の様子

(中京東部・中京西部地区医師会)

平成31年2月16日(土)、和牛登録会館にて、『認知症を通して考える地域包括ケアの「かたち」』と題し、神戸市立医療センター西市民病院 脳神経内科部長(認知症疾患医療センター長兼務)・木原 武士氏等にご講演いただき、医師32名、多職種50名、合計82名が受講しました。



中京東部・中京西部会場の様子

### ●受講者の声● (受講後アンケートより抜粋)

- 色々な人の立場から(医師間でも)、多様な意見が聞けたこと。自分自身で考えが及ばないことも聞けた。(下京西部/医師)
- 患者(利用者)を中心に多職種で連携していくことで、地域で家での生活が叶うのと改めて確認しました。本人の意思尊重の重要性。(下京西部/多職種)

- 初期対応が重要なこと、認知症の会の入会法が分かりました。患者さんの意見・薬剤師さんの意見が聞けて良かったです。(中京東部・中京西部/医師)
- 薬のチームケアで、服薬管理・残薬をなくすことへつながることを改めて知ることができた。このような会があることで、各専門職・医師とも意識づけができる。(中京東部・中京西部/多職種)

## ■平成30年度 かかりつけ医認知症対応力向上研修 地区医師会(東山)(京都北・上京東部・西陣)(亀岡市・船井) 開催報告

(東山地区医師会)

平成30年12月1日(土)、京都府医師会館にて、「(I) かかりつけ医の役割 (II) 診断と治療 (III) 連携と制度」と題し、(I) 林医院 院長・林 順子氏、(II) 京都第一赤十字病院 脳神経化・脳卒中科 院長・五影 昌弘氏、(III) 手越医院 院長・手越 久敬氏にご講演いただき、医師43名、多職種38名、合計81名が受講されました。

(京都北・上京東部・西陣地区医師会)

平成31年1月19日(土)、青蓮会館にて、「(I) かかりつけ医の役割 (II) 診断と治療 (III) 連携と制度」と題し、(I) たなか往診クリニック 院長・田中 誠氏、(II) 竹上内科クリニック 院長・竹上 徹氏、(III) 京都博愛会病院 精神科 副院長・佐々木 学氏にご講演いただき、医師47名、多職種27名、合計74名が受講されました。

(亀岡市・船井地区医師会)

平成31年3月2日(土)、京都中部総合医療センターにて、「(I) かかりつけ医の役割 (II) 診断と治療 (III) 連携と制度」と題し、亀岡シズ病院 メンタルヘルス科 院長・島田 稔氏、亀岡病院 神経内科 部長・森 信人氏、京都中部総合医療センター 内科・総合内科 統括部長 内科部長・在宅医療センター 院長・佐藤 克明氏にご講演いただき、医師25名、多職種27名、合計52名が受講されました。



### ●受講者の声● (受講後アンケートより抜粋)

- 認知症についての知識のまとめとなった(東山/医師)
- 自身の働く圏域の認知症サポート医からの講演で大変わかりやすかったですし、今後、更なる連携を期待できると感じた。また、専門医からの講演は疾患について、症状・対応の仕方などの理解を深められたため、大変有意義な研修と感じた。(東山/看護師)
- 認知症の総合的な対応方法を効率的に学習することができた。(京都北・上

京東部・西陣/医師)

- わかりやすい説明で、先生方にも介護保険等、理解していただいて福祉との連携がしやすくなるのではと期待しています。(京都北・上京東部・西陣/介護支援専門員)
- 主治医意見書の書き方のポイントが分かりました(亀岡市・船井/医師)
- 分かりやすい講演であり、DVDも間に挟むなど理解や再確認ができた。亀岡市・船井/介護支援専門員)

## ■平成30年度 認知症サポート医連絡会 / 認知症サポート医フォローアップ研修 (南部)(北部) 開催報告

(南部)

平成31年3月9日(土)、京都府医師会館にて、第2回認知症サポート医連絡会後、認知症サポート医フォローアップ研修(南部会場)を開催。認知症サポート医連絡会では京都府警より、改正道路交通法施行後の府内の状況及び地域包括支援センターとの連携について、家庭裁判所から成年後見制度における診断書の書式の改定等についての説明がありました。

また、今年度より始まった多職種協働研修についての意見交換や、認知症サポート医の活動促進の議論等、来年度に向けて活発な意見交換が行われました。



高知大学医学部  
神経精神科学講座 教授  
数井 裕光氏

会議後開催された認知症サポート医フォローアップ研修では「BPSDに対する診療連携治療」と題し、高知大学 医学部 神経精神科学講座 教授・数井 裕光氏等にご講演いただき、84名の医師が受講されました。

(北部)

平成31年3月23日(土)、ホテル北野屋にて、「認知症を併存するがん患者へのアプローチ」と題し、京都大学医学部附属病院 緩和医療科 京都大学大学院医学研究科人間科学系専攻 准教授・谷向 仁氏等にご講演いただき、医師23名、多職種8名、合計31名が受講されました。



京都大学医学部附属病院  
緩和医療科  
京都大学大学院医学研究科  
人間科学系専攻 准教授  
谷向 仁氏

# 在宅医療 あれこれ

— vol.7 —

## 人生最期の 幸福



渡辺 康介氏  
医療法人社団都会  
理事長

今、平成最後の4月です。来月からは新しい元号「令和」になります。何か時代の移り変わりを実感する今日この頃です。そして今、世界の人口は75億とも言われています。1位が中国2位がインドとされていますが、今世紀中にこの2国は入れ替わると言われています。入れ替わるのがどうこうではないのですが、肝心なのは先進国が押しなべて人口減に向かい、発展途上国の人口が増えていくということです。今世紀末には111億位になるとか、しかし地球に負荷をかけ続けるこの人間の増加がいつまでも続くと考えられません。いつしか全世界が人口減に向かうのは必定の事と思えます。

翻って2004年にピークを迎えた日本の総人口は徐々に減りはじめ、2035年には年間100万人が減ると言われています。2100年には5,000万人程度になると考えられます。1,000兆円の国の借金が国民一人当たり860万円と言っています。しかし国民の誰一人として国にお金を貸しているという意識は持っていません。貸してほしいと頼まれたこともないし返してほしいといった人もありません。毎年30兆円ずつ増える国の借金ですが、どうしようもないのであれば今後も流れ流しにすればいいのではと思ってしまいます。医療・介護・福祉に使われる税金と保険料が約100兆円、この多くが高齢者に使われているのが現状です。介護保険も10兆円で、40歳以上から支払い義務があり、更に健康保険同様に20歳以上から徴収しようとする動きもある昨今、若い人が高齢者に支払う一方の現行制度では受益者負担の原則から乖離してしまうのではないのでしょうか。社会保障制度を持続可能なものにするには高齢者の既得権にメスを入れて行かざるを得ないとも思えます。

一方、300年前に始まった産業革命以降の文明もついに終焉の時期を迎え、新たな文明が胎動してきています。その証拠に民主主義社会もアメリカ大統領にトランプ大統領という従来ではとてもその器ではないと思われる人物が当選し、その姿を変貌させ従来の価値観では測れない世の中となってきました。資本主義はいつまでも資本を増やす役割を終えつつあるように、いずれの国も永遠に成長し続けるものでない事も判明し、新たな価値観社会の仕組み作りが必要になっています。利息を取らないイスラムの銀行も参考になるでしょう。

話は違うが今訪問診療している患者さんの中に川口市から京都市に転居して「死ぬなら、京都が一番いい」という著書を上梓した人がいます。その彼が死の準備教育が必要だという。それは1. 死が決定した時の覚悟の作り方、2. 楽に楽しく闘病するための技術、3. 何をしておせば死を待つ時間が明るくなれるか、4. 何をこの世に遺すのか、一を教える事だという。現状の死生観では「死は人間が最後に通過する不幸」のままであり、「死を人間が最後に通過する幸福」にするためには、この準備教育は必須です。死を忌み嫌うものではなく有難いチャンスととらえます。シェークスピアも語っている様に最後のチャンス、人間としてたった一度のチャンスを逃す手はありません。動物行動学者の日高敏隆先生も著書「プログラムとしての老い」の中で「人生はすでにプログラムされている、只どのように生きるかは各個人に任されている、楽しく最終幕を終えたい」と書かれました。そして望まれたその通りに亡くなられました。私達在宅医は、この最期の幸福に貢献する役割を与えられているのではないかと最近では思っています。